

5-1 えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画

(1) 基本方針

えちぜん鉄道は、嶺北の東西方向の骨格を形成する幹線交通として、勝山市・永平寺町・福井市・坂井市・あわら市の5市町53kmを線路でつなぎ、地域の歴史、文化、観光資源もつないでいます。また鉄道の主要駅ではフィーダー交通が幹線交通と接続され、公共交通によって「人・まち・暮らし」がつながっています。

しかしながら交通圏内の居住人口の減少が顕著になる一方、観光による交流人口は増加し、北陸新幹線の開業により観光客はさらに増加すると考えられます。これらに対応するため、これまでのまちづくりや交通体系のあり方を大きく転換し、公共交通を中心とした土地利用の誘導やコンパクト化、公共交通網によるネットワークの形成が重要になります。

また公共交通のネットワークによる広域性・利便性・速達性を今後も維持していくために、行政や交通事業者は日常・非日常利用者の目線に立ってニーズに応え、市民（利用者）は高頻度の乗車により利便性やサービス水準を高め、乗って維持し、乗って不便を解消する事が大切です。

本計画の策定及び実施にあたっては、これまでの地域の成り立ちや社会基盤整備の状況を十分に踏まえ、沿線都市の地域拠点(核)をえちぜん鉄道で結ぶ「多核連携によるネットワーク型のコンパクトシティ」により、移動の利便性が高く、車に頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指します。

その形成に当たっては、沿線都市が既存のコミュニティや地域特性を踏まえた上で、各種の都市機能を駅周辺に集積することに努力し、それらの地域拠点を公共交通でつなぐことを基本方針とします。

また沿線都市が、えちぜん鉄道や広域幹線バスを骨格とする幹線交通網から日常生活に密着した地域のコミュニティバス網に至る、階層性を持った公共交通ネットワークを形成することで、拠点間の円滑な移動を確保します。

これらの「拠点化」と「ネットワーク化」を推進することにより、えちぜん鉄道交通圏は、距離的には広域であっても、スムーズな移動の確保によりコンパクトなエリアとして機能し、さらに「市民生活の質の向上」や「観光客の利便性」を高めます。

(2) 計画の期間

「平成27年度から平成33年度までの7年間」

えちぜん鉄道の前身である京福電鉄の存続問題にあたり、鉄道沿線5市町では、「鉄道は地域住民の日常生活を支え、地域活性化やまちづくりの観点から重要な社会基盤である」と意思を表明し、第3セクター方式でえちぜん鉄道が設立しました。

同時に鉄道を正常に運行させるための長期的な支援方針が示され、発足10年間のスキームとして平成14年度～平成23年度の長期的支援を行い、さらに新スキームとして、鉄道を末永く次世代に引き継ぐために、えちぜん鉄道を地域の発展を支える「生活関連社会資本」と位置づけ、平成24年度～平成33年度の10年間の継続した支援が決まっています。

本計画の計画期間は、この新スキームとの整合を図るため、平成33年までの7年間とします。

(3) 計画の区域

計画区域は、えちぜん鉄道交通圏とします。

えちぜん鉄道交通圏とは、えちぜん鉄道と京福バス路線網を有機的に結合することで都市の発展が期待できる交通領域で、福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、大野市に及ぶエリアとします。

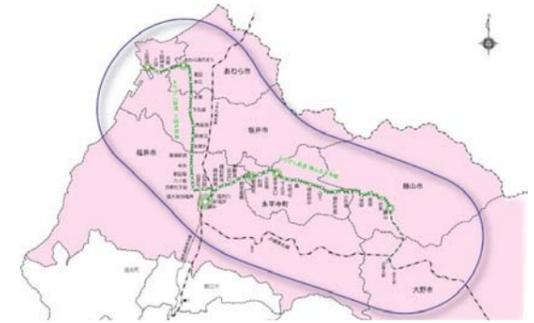


図-1 計画の区域

(4) 計画の目標

えちぜん鉄道は「地域の発展と日々の暮らしを支える生活関連社会資本」として沿線都市のまちづくりにとって大きな役割を担っていますが、今後は移動の快適性を向上させ、市民や観光客の満足度を高め、車と比べても『選ばれる移動手段』にならなければなりません。

そのために、路線バスや地域密着型のコミュニティバス等を連携させ、公共交通網をネットワーク化することで移動の利便性が高く、車に頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指します。

目指すべき公共交通の将来像 「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」

- 目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現
- 目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現
- 目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現
- 目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

5-2 目標を達成するために行う事業及びその実施主体等

(1) 目標達成に向けた施策体系

目指すべき将来像の実現に向けて取り

組むべき施策を4つにまとめ、それぞれにおいて実施すべき具体的な取組みは以下のとおりです。

目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現
快適な駅施設の整備、駅やバス停へのアクセス向上、他交通機関との接続向上を進め、「地域の交通として利用したくなる公共交通」を目指します。具体的には以下のような施策を展開します。
A 利用環境の向上 (2施策) B 駅やバス停へのアクセス向上 (10施策) C 交通機関の乗り継ぎ利便性向上 (3施策)
目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現
計画的な鉄道施設への設備投資や維持修繕、路線バスへの運行支援を行い、「安全・安心に利用できる公共交通」を目指します。具体的には以下のような施策を展開します。
D 安心・安全を支える鉄道施設づくり (2施策) E 信頼できる運行を支える鉄道施設づくり (1施策) F バス路線の維持 (1施策)
目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現
主要拠点駅を核としたまちづくり、沿線の観光施設等との連携を進め、「車に頼らないまちづくりや広域観光と連携した公共交通」を目指します。具体的には以下のような施策を展開します。
G 駅を核としたまちづくり (9施策) H 観光・地域活性化施策との連携 (8施策) I 情報発信の連携・強化 (7施策)
目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現
行政や事業者だけでなく、利用者も一体となって、公共交通への意識を高め、利用促進につなげるための取組を行う「住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通」を目指します。具体的には以下のような施策を展開します。
J 乗る運動・利用促進 (8施策) K 地域住民との連携 (4施策)

(2) 個別施策の実施主体及びスケジュール

目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現

- A 利用環境の向上 (2 施策)
- B 駅やバス停へのアクセス向上 (10 施策)
- C 交通機関の乗り継ぎ利便性向上 (3 施策)

施策のポイント	実施項目	実施内容等	実施主体	27	28	29	30	31	32	33
A 利用環境の向上										
1 駅施設の整備改善	トイレ整備	水洗化 バリアフリー化 段差解消 手摺設置 点字ブ ロック整備	えちぜん鉄道・ 沿線全市町							
	ホーム・構内の整備、改善 待合環境の整備 待合室整備 ホーム屋根設置 付帯施設の整備	自転車駐輪場 P&R駐車場								
2 利便性向上のための駅施設整備	新駅の設置	新駅の設置 (福井口駅～西別院間)	えちぜん鉄道・ 福井市							
B 駅やバス停へのアクセス向上										
3 周辺道路等の改善	除雪・排雪体制の整備	P&R駐車場の除雪 並行道路の除雪 交差道路の除排雪の調整	沿線全市町・ 福井県・ えちぜん鉄道・ バス事業者							
4 利便性向上のためのバス施設整備	田原町駅へのバス停新設及び 待合所新設	停留所施設、待合環境の整備	バス事業者・ 福井市							
5 サービス提供の充実	福井駅交通広場開業に合わせた バスロケーションシステムの導入	GPSを活用した高精度の位置 情報や、沿線の観光情報等を バス乗り場の大型モニターで提 供	福井市・ バス事業者							
6 携帯端末への情報発信	広域でバスの位置がわかるバス ナビゲーションシステムの導入	GPSを活用した高精度の位置 情報を携帯端末を通じて提供	沿線全市町・ 福井県・ バス事業者							
7			坂井市							
8			勝山市							
9			永平寺町							
10			大野市							
11			福井市							
12 サインの充実	三国駅への誘導、観光地への 誘導サイン等の充実	誘導サイン、案内サイン、解説サ イン等を新幹線福井開業に向け て整備	坂井市							
C 交通機関の乗り継ぎ利便性向上										
13 他交通機関との接続向上	福井鉄道との相互乗り入れ	ダイヤ調整、乗継運賃 乗り入れ施設の整備と運行 車両の増強	えちぜん鉄道・ 福井県・沿線全市町							
14 福井駅西口駅前交通広場整備	駅前交通広場の整備	バス・タクシー乗降場整備による 鉄道との交通結節機能の向上	福井市							
15 列車運行の改善	運行時間帯、JRダイヤ改正時 における接続確保 所要時間の改善	始発・終発時刻の改善 快速列車の運行等	えちぜん鉄道・ 沿線全市町							

目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

- D 安心・安全を支える鉄道施設づくり (2 施策)
- E 信頼できる運行を支える鉄道施設づくり (1 施策)
- F バス路線の維持 (1 施策)

施策のポイント	実施項目	実施内容等	実施主体	27	28	29	30	31	32	33
D 安心・安全を支える鉄道施設づくり										
16 早期の抜本的対策が必要な設備投資	設備投資	軌道整備、橋梁整備、法面整 備、車両更新	えちぜん鉄道・ 福井県							
17 鉄道施設の維持	線路・電路等維持修繕の実施		えちぜん鉄道・ 沿線全市町							
E 信頼できる運行を支える鉄道施設づくり										
18 幹線道路等との立体交差化	福井駅付近連続立体交差事業	福井・福井口間の高架化	福井県							
F バス路線の維持										
19 バス路線維持への行政支援	欠損補助		福井県・沿線全市町							

◇鉄道施設整備に向けた行政支援

沿線市町：社会資本の維持に必要な経費の支援を行います
福井県：鉄道運行に必要な資産取得や設備投資等への支援を行います

◇バス路線の維持に向けた行政支援

沿線市町：路線バスや地域のコミュニティバス等の維持に必要な経費の支援を行います
福井県：広域を運行する路線バスの維持に必要な経費の支援を行います

目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや 広域観光と連携した公共交通の実現

- G 駅を核としたまちづくり (9 施策)
- H 観光・地域活性化施策との連携 (8 施策)
- I 情報発信の連携・強化 (7 施策)

施策のポイント	実施項目	実施内容等	実施主体	27	28	29	30	31	32	33
G 駅を核としたまちづくり										
20 駅周辺への都市機能集約	駅周辺の各種都市機能の立地 を促進	病院 学校 商業施設 金融機 関等の立地促進	沿線全市町・福井県							
21 駅周辺の土地利用誘導	駅周辺に良好な市街地形成を 誘導	住宅地・事業用地の形成を誘導	沿線全市町・福井県							
22 福井駅を中心とした居住の誘導	福井駅を中心に、まちなか住ま い支援事業を推進し居住の誘 導を行う	二世帯型住宅建設等補助、隣 接地との共同建て住宅建設補 助、小規模集合住宅建設補助、 リフォーム補助、若年夫婦世帯 等への家賃補助	福井市							
23 福井駅前への店舗誘致	中央1丁目出店者への支援	店舗開業経費補助や、家賃補 助	福井市 まちづくり福井(株)							
24	既存施設の活用	駅周辺に立地する公共施設の 活用	沿線全市町・福井県							
25	既存施設の複合化	行政出先機関の統廃合時に は、駅周辺にある施設への移 転・集約を検討	沿線全市町・福井県							
26 サービス供給の拠点化	サービスセンター 児童館 保 育園 高齢者日帰りサービス 等	新設や移転時には駅周辺への 配置を検討	沿線全市町・福井県							
27 駅周辺施設の整備	駅を含めたエリア全体での観光 資源拡充	三国駅周辺における歩道等の 整備	坂井市							
28 交流施設としての駅の活用	観光客や市民が喫茶を楽しみ ながら集える交流施設の運営	勝山駅でのえち鉄カフェの運営	えちぜん鉄道							
H 観光・地域活性化施策との連携										
29 地域色を活かした企画	広域連携による観光の推進 目的別情報発信 オリジナルグッズの作成・販売 沿線特産品の販売促進	自転車用観光地巡りマップ オリジナル乗車券 駅周辺の新鮮野菜販売 沿線特産品の交流販売・コラボ メニュー開発	えちぜん鉄道・ 沿線全市町・福井県							
30 企画列車の運行	企画列車の運行	ハロウィン列車(実施中)等の 運行、観光地とのタイアップ企 画、宿泊施設・観光施設と連携 したサービス企画	えちぜん鉄道							
31 観光用コミュニティバスの運行	土日祝に観光用コミュニティバ スを運行	勝山駅と勝山市内を巡る観光用 コミュニティバスの運行	勝山市							
32 企画バスの運行	鉄道と連携した企画バスの運行	福井駅・あわら湯のまち駅・勝山 駅等の主要拠点を中心に観光 地とタイアップした企画バスを 運行	バス事業者・ えちぜん鉄道							
33 臨時バスの運行	祭事開催に合わせ、鉄道と連携 した臨時バスの運行	三国花火、フェニックス祭り等 での臨時バスや増便運行	バス事業者・ えちぜん鉄道							
34 バス観光を中心としたフリーきつ ぶ	鉄道からバスに乗り換えて観光し やすいように、バスのフリーキッ プの利用促進	休日1日フリーキップ、海岸方 面、東尋坊方面への2日間フ リーキップ	バス事業者							
35 自転車を活かしたサービスの充 実	レンタサイクルの利用拡大	レンタル用自転車の更新	えちぜん鉄道・ 沿線全市町							
36	サイクルトレインの利用促進	自転車関連イベントとの タイアップ	えちぜん鉄道・ 福井県・沿線全市町							
I 情報発信の連携・強化										
37 駅・車内での観光情報発信	主要駅に観光案内窓口設置	土日限定等で開設	沿線全市町・ えちぜん鉄道							
38	アンデナントによる車内での 観光案内	観光シーズンを中心	えちぜん鉄道							
39 駅・車内での地域情報・行政情 報の提供	駅・車内でのポスターの掲出	イベント情報等を提供	沿線全市町・福井県							
40	電車で設置されているモニター の利用	動画による情報発信	沿線全市町・福井県							
41 沿線共同での情報発信	沿線市町と県が共同で沿線イベ ントや観光情報・地域情報等を 発信	市町・県の広報媒体やホーム ページの活用	沿線全市町・福井県・ えちぜん鉄道							
42 双方向・ダイレクトコミュニケー ションの促進	スマートフォン向けアプリの開 発、Facebook等の活用	乗り換え情報や駅周辺の観光 情報を提供	えちぜん鉄道・ 沿線全市町							
43 勝山市コミュニティバスの時刻 表作成	時刻表の作成	全路線の時刻が一冊にまとまっ た時刻表の作成と配布	勝山市							

目標4 住民・行政・事業者が協働で 利用促進する公共交通の実現

- J 乗る運動・利用促進 (8 施策)
- K 地域住民との連携 (4 施策)

施策のポイント	実施項目	実施内容等	実施主体	27	28	29	30	31	32	33
J 乗る運動・利用促進										
44 自治体による利用促進	通勤・出張時の電車利用 行事・イベント時の電車利用促 進	自治体職員の通勤及び出張時 のえちぜん鉄道利用の強化 行事等には電車利用での参加 を推進	沿線全市町・福井県							
45 カー・セーブ運動の推進	カー・セーブデー(毎週金曜日) の実施	運賃割引 参加企業の拡大	福井県、沿線全市町・ えちぜん鉄道・ バス事業者							
46 沿線事業所への利用働きかけ	沿線事業所等への電車利用の 働きかけ	沿線事業所等へ電車通勤の働 きかけ 社用移動時のえちぜん鉄道利 用推進	えちぜん鉄道・ 沿線全市町							
47 こどもが電車に乗るきっかけづく り	遠足等でのえちぜん鉄道利用 推進	遠足時の運賃を補助 各学校へのルート・最寄施設等 の情報提供	沿線全市町							
48 通勤・通学でのえちぜん鉄道利 用促進	通学、通勤利用の促進	えちぜん鉄道を利用した通勤・ 通学のPR、啓発等	沿線全市町							
49 利用促進イベントの開催	(例)お客様感謝イベントの開催	電車の利用PR 沿線特産品の販売 えちぜん鉄道支援の広報等	えちぜん鉄道							
50 公共交通とまちづくりに向けた 意識啓発と利用促進	公共交通とまちづくりへの意識 啓発と利用促進	カーフリーデーやまちフェスなど の各種イベントに合わせた、公 共交通とまちづくり事業の実施	市民団体・企業・ えちぜん鉄道・ バス事業者・ 福井市・福井県							
51 免許返納制度の推進	65歳以上の住民を対象にした自 動車免許返納制度の推進	免許返納者には住基カード発 行手数料免除や、コミュニティ バスの無料乗車券等を交付	沿線全市町							
K 地域住民との連携										
52 サポーターズクラブの強化	入会の推進 協賛企業の拡大 会員による利用の拡大	会員向け情報発信の強化(DM 会報誌) 特典の拡大強化(セット券 協賛 店サービス) 会員向け企画の実施	えちぜん鉄道 (えちつサポーター ズクラブ)							
53 サポート会の活動	利用啓発活動 駅舎・沿線等の環境向上活動 イベント・ツアーの開催	菜の花種 寄せ植えコンテスト (あわら市)等 サポート会で電車に乗って行く ツアーの実施	各サポート会・ 沿線全市町							
54 福井市バストリガー制度の導入	バストリガー制度の実施	生活・観光路線である鮎川線の 維持向上に向けて、沿線住民に よる乗る運動とバス停周辺の清 掃活動等の実施	福井市・沿線住民・ バス事業者							
55 駅を活用した住民主体のまちづ くり活動の促進	えちぜん鉄道・福井鉄道が相互 乗り入れる田原町駅において 住民主体のまちづくり活動を展 開する	フリースペースやガーデニング スペースを設け、市民の作品展 示やガーデニングによる調子を 演出する	福井市・沿線住民							

福井市バストリガー制度について

バストリガー制度とは、延長30kmの広域路線バス「鮎川線」において、上限1,190円の運賃を700円に引き下げ、代わりに沿線住民の利用を促す。具体的には、年間4,400人/年の利用目標と、バス停周辺の清掃やバス停の簡易修繕等を行う。この目標は点数化され一定の基準を達成できれば維持され、未達成の場合は減便や途中での乗継ぎ運行になる。またフリークーポンを発行し、越前海岸への観光の利用を促すもの。



年間利用者数の増加



バス停の清掃

5-3 計画推進のための指標

【事業実施状況の評価】

目指すべき公共交通の将来像の目標と、将来像を実現させるための実施目標の4項目、合計5つの目標について指標を設定し評価を行います。

(1) 目指すべき公共交通の将来像の指標 「車と比べても『選ばれる移動手段』になる」

評価項目	数値目標		定義および根拠
	現状 (H27.3.31)	将来目標 (H34.3.31)	
(評価指標1) 公共交通の利用者数	743万人/年	748万人/年 1%増加	定義: えちぜん鉄道、路線バス、各市町のコミュニティバス(デマンドバス、デマンドタクシー、地域バスを含む)の利用者合計 根拠: 公共交通の利用者を1%増加させる。(えち鉄333万人+路線バスは現状維持+コミュニティバス等は1%程度増加の合計) 計測方法: 交通事業者にヒアリング

(2) 目指すべき公共交通の将来像を実現させるための実施目標の指標

■目標1 地域の交通として利用しなくなる公共交通の実現

評価項目	数値目標		定義および根拠
	現状 (H27.3.31)	将来目標 (H34.3.31)	
(評価指標2) 新駅の利用者数	—	60,000人/年	定義: 福井駅口駅と西別院駅の間に設置される新駅の利用者数 根拠: 開業時の利用見込み人数30,000人/年と予測、過去の新駅実績(約2倍)と同程度と考える 計測方法: 交通事業者へのヒアリング
(評価指標3) 相互乗り入れによる利用者数	31,496人/年 ※連絡乗車券利用者数	153,000人/年	定義: フェニックス田原町ラインの利用者数 根拠: 相互乗り入れに関する事業検討会議による試算、通勤定期利用者95,000人/年、通学定期利用者58,000人/年 計測方法: 交通事業者へのヒアリング
(評価指標4) えちぜん鉄道利用者の満足度	65%	85% 20ポイント増	定義: 幹線交通軸としての利用者の満足度を把握する。 根拠: H23.4 実施のえちぜん鉄道アンケート「問6-総合的な満足度」について、満足度を20ポイント向上させる 計測方法: アンケート調査

■目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

評価項目	数値目標		定義および根拠
	現状 (H27.3.31)	将来目標 (H34.3.31)	
(評価指標5) 交通事故の減少数	1,529件/年	1,376件/年 1割減	定義: 6市町の人身事故件数 根拠: 6市町全体でH25→H26が約2割減少しているが、将来目標としては1割減少を目指す 計測方法: 福井県警にヒアリング
(評価指標6) 故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	2件/年	0件/年	定義: 故障等の部内原因による、えちぜん鉄道の遅延障害件数 根拠: 遅延障害を0に近づける 計測方法: えちぜん鉄道にヒアリング

■目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

評価項目	数値目標		定義および根拠
	現状 (H27.3.31)	将来目標 (H34.3.31)	
(評価指標7) 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺(半径500m圏域)の人口	16,777人/年	16,777人/年 現状維持	定義: 松岡駅、永平寺口駅、勝山駅、田原町駅、あわら湯のまち駅、三国駅の半径500m以内の町丁目の合計人口 根拠: 6市町全体の人口が減少していることから、現状維持とする 計測方法: 住民基本台帳ベース(各年4月1日付)
(評価指標8) 鉄道とバスが接続する主要拠点駅周辺(半径100m圏域)の生活利便施設の立地件数	44施設	44施設以上	定義: 松岡駅、永平寺口駅、勝山駅、田原町駅、あわら湯のまち駅、三国駅の半径100m以内に立地する生活利便施設の合計 計測方法: 住宅地図上でカウント
(評価指標9) レンタサイクルの利用者数	14,000人/年	16,800人/年 2割増	定義: ふくチャリ、えち鉄主要駅、朝倉氏遺跡、湯けむり創生塾、三国湊レンタサイクルまち流し号、ゆめおれ勝山の利用者数の合計 根拠: 健康志向の高まりや、北陸新幹線開業によるまちなか散策等の観光客が増加しているため、利用者を2割増加させる 計測方法: 市町・事業者へのヒアリング
(評価指標10) 企画列車・企画バスの合計本数	13本	15本 2割増	定義: 交通事業者が企画運行する列車やバスの運行本数(朝倉特急バス、レイニーバス、さくら号、竜王ライナー、すいせん号、永平寺特急バス、スキージャム号、三国花火バス、ハロウィーン列車、左義長まつりツアー、勝山小原地区散策ツアー、取立山トレッキングツアー、恐竜電車) 根拠: 北陸新幹線開業による交流人口が増加していることから、交通事業者の企画運行本数を2割程度増加(えち鉄・京福バスが1企画ずつ増加させる) 計測方法: 交通事業者にヒアリング

■目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

評価項目	数値目標		定義
	現状 (H27.3.31)	将来目標 (H34.3.31)	
(評価指標11) サポート会等の市民活動の活動回数	45回/年	50回/年 1割増	定義: えち鉄サポート会、サポート団体加盟のNPO・老人会・婦人会、鮎川線トリガー等 根拠: 地域(自分)のまちづくりの一環として定着した市民活動回数を1割増加させる 計測方法: 活動団体にヒアリング
(評価指標12) 鉄道を使った遠足利用者数	146団体/年	146団体/年 現状維持	定義: 中学生以下の児童生徒の遠足利用の団体数 根拠: 児童生徒数の減少においても積極的な利用促進を行い、横ばい推移を維持する 計測方法: 交通事業者にヒアリング

5-4 計画推進体制

この計画に掲載した利用促進の各施策をスパイラルアップ的に推進するため、地方自治体とえちぜん鉄道、京福バスが協働し、社会情勢の変化に応じた評価・改善の仕組みを定めます。

(1) PDCAサイクルの実行

本計画で掲げた目標を達成するために、コンパクトで住みやすいまちづくりに向けた新たな取組みの計画(Plan)を策定し、計画された取組みを継続的に実施する(Do)、実施した取組みについて検証および評価し(Check)、問題点があれば見直しを検討する(Action)、このようなPDCAサイクルを実行していきます。継続的に連携協議会では、点検・評価の結果を受けて、見直しや修正が必要であれば、適時修正を行い計画期間中の推進を図ります。



(2) PDCAサイクルの実施体制

PDCAサイクルの実行は、妥当性・有効性・効率性・持続性等の視点を踏まえ、えちぜん鉄道活性化連携協議会が、形成計画の進捗管理および施策の評価・検証を行います。

実施体制としては、えちぜん鉄道活性化連携協議会のもとに「支援管理本部」「バス交通推進部」「えちぜん鉄道・福井鉄道利用転換推進部」の3つの部会を設置します。

各部会はプロセスの過程だけを評価・検証するのではなく、施策を実施し、どのような効果があったのか、なぜ成果が出なかったのか、何をすれば利用者のニーズに応えられるのか等、施策を具体的に評価・検証し連携協議会に報告します。

連携協議会は各部会から報告を受けた内容を踏まえ、形成計画全体の進捗管理および施策の評価・検証を行います。

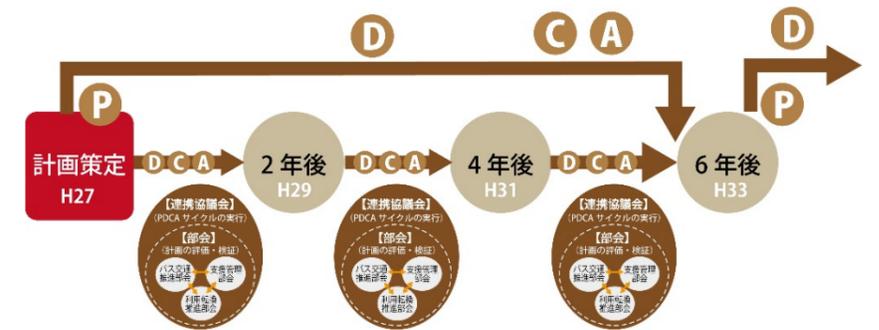


図- PDCAサイクルの実施体制のイメージ